

## 働く人の思いを声にして

愛媛県労働者福祉協議会では、平成21年1月に緊急雇用創出事業として「労働者の声の発信事業」を受託し、新規にスタッフを雇用し「現下の厳しい雇用経済状況の中において、労働者や離職者が働くことに希望を抱くことができるような情報発信を図る」ことを目標に取り組んできました。今号で受託事業としての情報発信は終了することになります。

第1号から第37号までの、各号で取り上げてきたテーマは様々ですが、「働くことに希望を抱くことができるよう」との想いは一貫してきました。毎月購読いただいている民間事業所の方から、ワーキングヴォイスは「働くこと、働くうえでの大切なことを伝えているね」との感想をいただき、同時に「このような情報を必要とする離職者の方々にどのように伝わっているのでしょうか」との問い合わせを受けました。情報の発信元として、この情報がどのような人々に伝わっているのかを考えさせられる場面となりました。緊急雇用創出事業による情報発信は今号で終了となります、ワーキングヴォイスで発行してきた「愛媛で働く人たちの声を伝える」ことを、何らかの形で継続できないか検討を行っています。

そのひとつとして、「働く人の思い」について“言葉”ではなく、客観的な指標として捉えるため、昨年10月に愛媛県勤労者定期観測調査（勤労者短観）を実施し、今回調査結果ができましたのでご紹介します。

### ~第1回 「愛媛県勤労者定期観測調査」結果（2011年10月調査）を紹介します~

昨年10月に実施された第1回 愛媛県勤労者定期観測調査(勤労者短観)の結果がでましたのでご紹介します。本調査は、愛媛で働く勤労者が感じている景況感や暮らし向きについての調査となっています。年2回の定期調査を繰り返していく中で、その動向をつかんでいくことを目的としていますが、企業や経営者を対象とした調査は多数実施されても、勤労者を対象に景況感や暮らし向きを定期的に調べる調査は少なく、また愛媛県内を広く対象地域とする定期調査となると類似のものは皆無となっており、愛媛新聞（3月13日付 16面）では、本調査結果に対し『暮らし向きでは、収入や預貯金の少なさなど金銭面での悩みが多く、大きな不安材料となっていることが浮き彫りとなった』と紹介いただきました。

「ワーキングヴォイス」では勤労者の“声”を取材を通して捉えてきました。データという客観的な指標ではありますが、勤労者を取り巻く環境を考える一指標としてみていきたいと思います。

対 象	：愛媛県労働者福祉協議会に登録する124団体・事業所の勤労者
調査項目	：定期調査（勤労者の景況感・仕事の現状・暮らし向き等）及び特別調査
調査実施期間	：年2回 4月・10月（第1回調査 2011年10月20日～11月30日）
調査依頼数	：（第1回調査） モニター登録者数 432 回収数：409 有効回答数：408

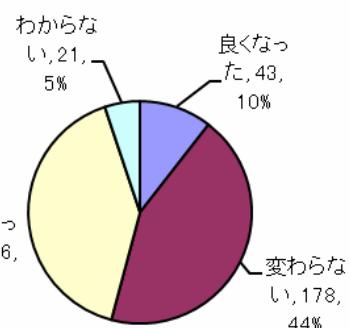
## (仕事・職場に関する設問への回答)

### 勤め先の経営状況について

「勤め先の現在の経営状況は、1年前と比べて良くなかったと思うか悪くなかったと思うか」についてお聞きした。

「変わらない」(44%)が最多の回答割合となったものの、「悪くなかったと思う」(41%)が、「良くなかったと思う」(10%)を大きく超過する結果となった。

### 勤め先の現在の経営状況 (一年前と比べて)

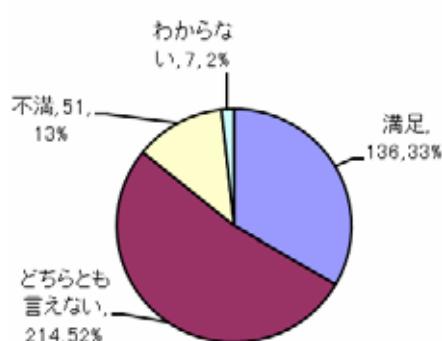


### 勤め先の仕事の満足感について

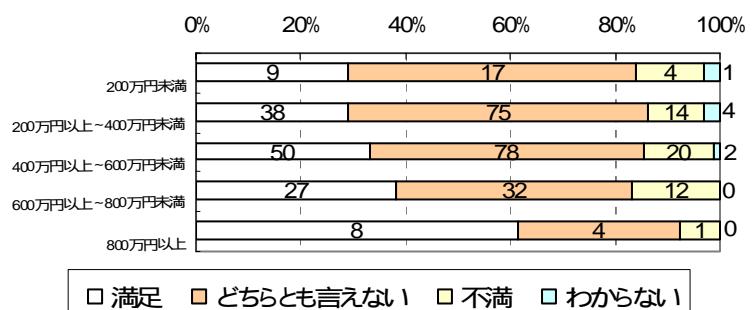
「現在の勤め先での仕事に満足しているか」についてお聞きした。

「どちらとも言えない」(52%)で半数を超えており、「満足」(33%)が、「不満」(13%)を上回った。年収別にみると、年収が多い層ほど「満足」の割合が高い。また年齢別では、仕事量や責任が増え始める30歳代において「満足」の選択率がやや少なくみられる結果となった。

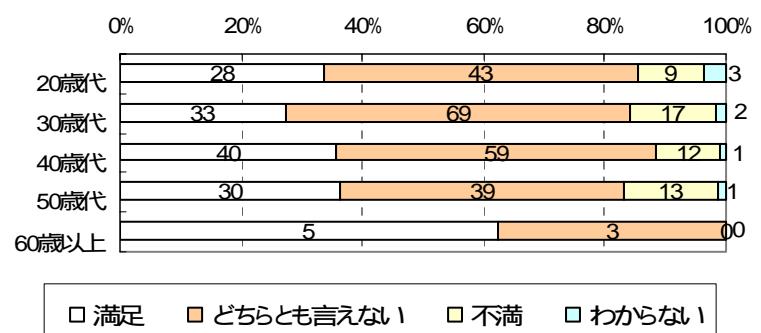
#### 現在の勤め先での仕事の満足度



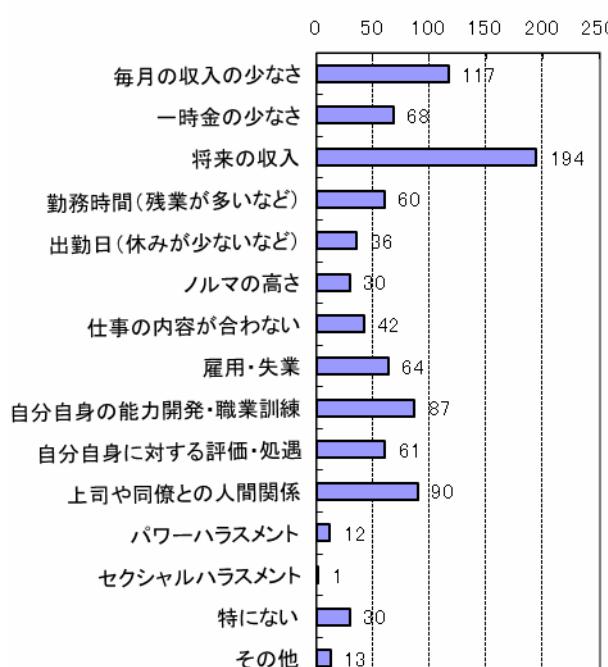
#### 年収別にみた勤め先での仕事の満足度



#### 年齢別にみた勤め先での仕事の満足度



### 仕事に関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと



### 仕事での不安・悩みについて

「仕事に関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと」について(3つまで選択可)お聞きしたところ、「将来の収入」(48%)、「毎月の収入の少なさ」(29%)の順に選択が多かった。「将来の収入」は、ほぼ2人に1人が選択しており、将来の収入に対する不安の広がりは深刻である。

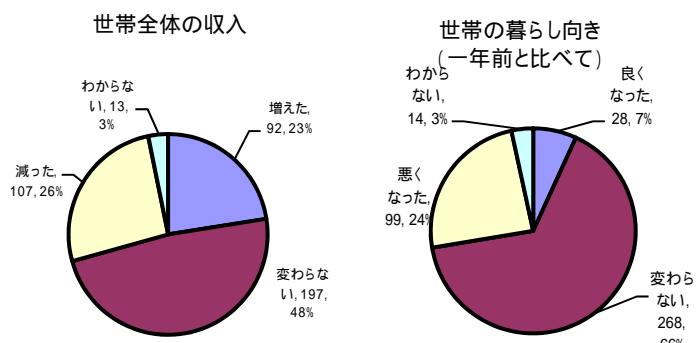
(暮らし・家庭生活に関する設問への回答)

## 世帯全体の収入について

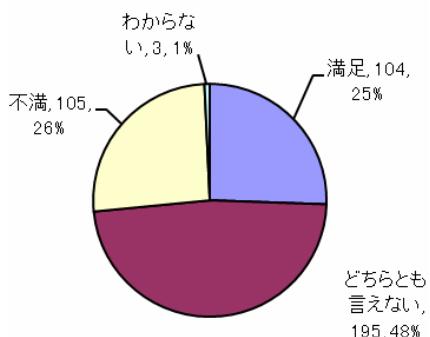
「世帯全体の収入は、1年前と比べて増えたか、減ったか」についてお聞きしたところ、「変わらない」(48%)が最多となり、「増えた」(24%)と「減った」(26%)の割合にも大きな差は見られなかった。

## 世帯の暮らし向きについて

「現在の世帯の暮らし向きは、1年前と比べて良くなかったと思うか悪くなかったと思うか」お聞きしたところ、「変わらない」(66%)が最多となったが、「悪化」(24%)が「良くなった」(7%)を上回った。



## 現在の生活の満足度



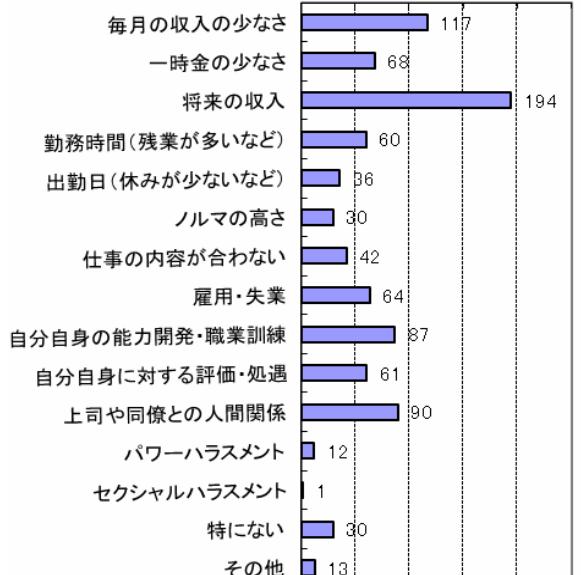
## 生活の満足感について

「現在の生活について満足しているか」についてお聞きしたところ、「満足」(25%)と「不満」(26%)の割合に差はみられなかった。しかしながら、就業形態別（「正社員」「非正規社員」）では違いがみられ、また、年収が多い層ほど満足感が高くなる傾向があり、さらに（年収とは逆になるが）20歳代の満足感が高いことが確認できた。

《就業形態別、年収別、年齢別図表についてはHPを参照ください》

仕事に関する不安

0 50 100 150 200 250



## 暮らし向きに関連した不安・悩みについて

「暮らし向きに関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと」(3つまで選択可)をお聞きしたところ、「預貯金など資産の少なさ」(57%)、「自分や家族の健康」(37%)、「自分自身または配偶者の老後」(29%)が上位の3つになった。家計の不安が、健康、老後、ローン、教育・・・と広がっていく状況が確認できる。



(全体の結果詳細は、

愛媛労福協HP内

“調査報告”を参照ください)

<http://ehime.rofuku.net/>

## 調査活動にご協力下さい

勤労者短観調査は現在124の事業所、432名の勤労者モニターにご協力いただいておりますが、今後は500名の勤労者モニターの確保にむけて、県内事業所の皆さんに呼びかけを行っています。調査にご協力いただける企業・事業所様におかれましては、下記までご連絡いただければ幸いです。

連絡先 3 愛媛県労働者福祉協議会 TEL 089(946)2296 (担当: 福岡)



# ～ワーキングヴォイス事業3年間を振り返って～

3年間の取り組みの中では、緊急雇用創出事業の第一の目的である雇用・就労の機会を創出する意味で10名の方を新規スタッフとして雇用し、事業に携わっていただき、一定の役割を果たせたと考えています。

毎月の紙面作成に当たっては、テーマ設定方針として、ひとつ目に「現下の厳しい雇用経済状況を伝えること」、二つ目に厳しい再就職の状況の中で離職者の方に意欲や新たな発見・チャレンジする気持ちを持ってもらうために「就労先の選択、働く分野の拡大に向けた紹介を行うこと」、三つ目に誰もが安心して働きつづけるために「働く環境づくりの状況を伝えること」、そして四つ目に働く場面や生活する場面で発生する不安や悩みの解消のために「各種相談事例や相談解決への手段の紹介」知らせることなどを重視してきました。

本事業で雇用したスタッフには、この方針に基づいて、「テーマの設定・企画」から「取材を通しての情報収集」「情報の編集・構成・発行」までの一連の作業工程について、主体的に担当いただきました。ほとんどの方が初めて体験する業務内容で、ご苦労いただきましたが、それぞれの担当者の「思い入れや情熱」が紙面に反映されたと感じています。また、スタッフ自身からも、取材活動を通して新しい職業に触れたことや各仕事に携わる方々と接し会話ができることで「自分の職業観が変わった」「新しい発見ができた」との声も聞かれました。就労されたスタッフからの近況報告では「新しい職場で頑張ってるよ」ともあり、本事業が単なる雇用創出ではなく、ひとつのステップとして新たな事業所での就労に繋がっていることに喜びを感じています。

(愛媛県労福協事務局長 鶩澤 光夫)

## 不安を力にかえて(ワーキングヴォイス編集スタッフに携わってみて)

情報発信という初めての経験で何をどの様に伝えれば良いのか戸惑いながら、数か月があっと言う間に過ぎました。混乱させず情報の本質を伝えること、どう表現したら分かりやすく伝えられるか等を考えるのは難しい作業でした。事実関係に間違いがあると全体の信頼性が失われかねない事もあり、伝えると伝わるは違うという言葉の重さを感じた1年でした。取材は特に気を遣うことでしたが、思いがけない所で話を聞く機会が持てたことはとても貴重な経験になりました。準備不足は緊張を増してしまって落ち着いて取材をするためには取材先や取材内容を事前に調べ準備をして抽象的にならないよう取材に臨むことはとても大事な事でした。

この事業を通し、労働者の色々な立場の視点で深く物事を考える機会になりました。この貴重な経験をさせて頂いたことに感謝し、今後の社会生活に活かしたいと思います。また、私たちが発信した事が少しでもお役に立てる内容の情報になったのであれば幸いと思います。(スタッフ A.S)

この1年、約30年ぶりのフルタイムの仕事に就き、やっていけるだろうかと初めは不安でした。「仕事は習うより、慣れろ」「経験に勝るものはない」ともいいますが、まず人に慣れ、仕事に慣れ、職場に慣れパソコンに向かいました。テーマを考え、取材に行きテープ起こしをし、原稿に仕上げて行く。そんな未知の世界を経験しながら時には、夢の中で原稿が真っ白で青ざめたり、自分との戦いの連続でしたが、無事最終号を迎えることができました。これもこの仕事の機会を頂いたお陰です。またご愛読いただきありがとうございました。

「フェイスブック 書店で探す 父笑え」こんな川柳がありましたが、私も仕事をしていなかつたらこんな子供の笑いの種になる母親になっていたと思います。今では「厚生労働省が…」とテレビから流れたり、新聞記事の「愛媛労働局の…」に目がとまつたりと反応している自分がいます。

そして今は、不安が力に変わりました。(スタッフ K.Y)

愛媛県委託事業：(平成23年度 労働者の声発信事業)

発 行：社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

〒790-0066 松山市宮田町125番地 愛媛県労福協会館 3F

TEL 089-946-2296 FAX 089-947-5616

